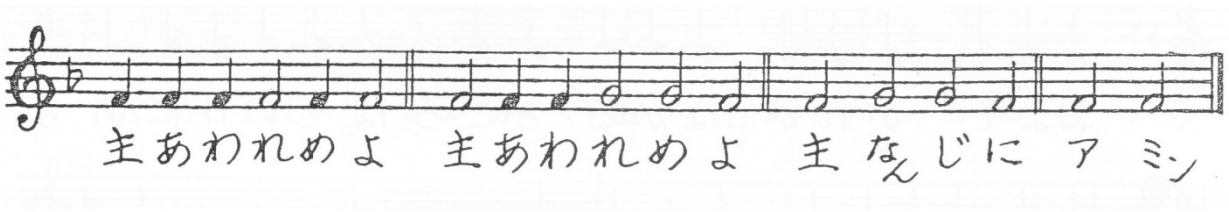
聖枝祭　代式祈祷

－　前半　－

輔祭　　主イイスス ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈祷によりて、我等を憐れみ給え。　**（詠）アミン**

【大連祷】



輔祭　　我等安和にして主に祷らん、　**（詠）主憐めよ**

輔祭　　上より降る安和と我等が 靈(たましい) の 救(すくい) の為に主に祷らん、　**（詠）主憐めよ**

輔祭　　全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん

輔祭　　この聖堂、及び信と慎みと神を畏るる心とを以て、ここに来たる者の為に主に祷らん、

輔祭　　教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教ダニイル、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祷らん、

輔祭　　我が國の天皇、及び國を司る者の為に主に祷らん。

輔祭　　此(こ)の都邑(まち)と 凡(およそ) の都邑(まち)と地方の為、及び信を以て此(こ)の中(うち)に居(お)る者の為に主に祷らん、

輔祭　　氣候順和、五穀豊穣、天下泰平の為に主に祷らん、

輔祭　　航海する者、旅行する者、病を患(うれ)ふる者(もの)、艱難(かんなん)に遭(そう)ふ者(しゃ)、虜(とりこ)となりし者、及び彼等の救の為に主に祷らん、

輔祭　　我等 諸(もろもろ) の憂愁(うれい)と忿怒(いかり)と危難(あやうき)とを免るるが為に主に祷らん、

輔祭　　神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑(たす)け救ひ憐み護れよ、

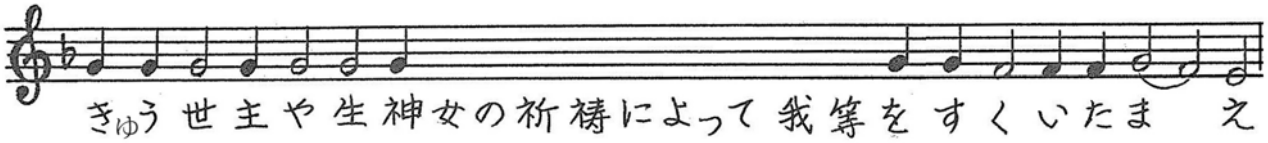
輔祭　　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

（詠）主爾に

輔祭　　主イイスス ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈祷によりて、我等を憐れみ給え。　**（詠）アミン**

第１アンティフォン　第 114 聖詠

誦経（附唱）救世主よ、生神女の祈祷に因りて我等を救ひ給へ。



誦経（第1句）我喜ぶ、主の我が声、我が祈りを聴きしに因る。

♪　**救世主よ･･･　（同上繰り返す）**

誦経（第2句）　彼は その耳を 我に 傾(かたむ)けたり、故に我在世(ざいせい)の日に彼を呼ばん。

♪　**救世主よ･･･**

誦経（第3句）　死の病は我をかこみ、地獄の苦しみは我に臨(のぞ)み、

♪　**救世主よ･･･**

誦経（第4句）　我 辛苦(しんく) 艱難(かんなん)に遭(あ)へり、その時 我 主の名を呼べり。

♪　**救世主よ･･･**

誦経　光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

♪　**救世主よ･･･**

【小連祷】

輔祭　我等またまた安和にして主に祷(いの)らん、　**（詠）主憐めよ**

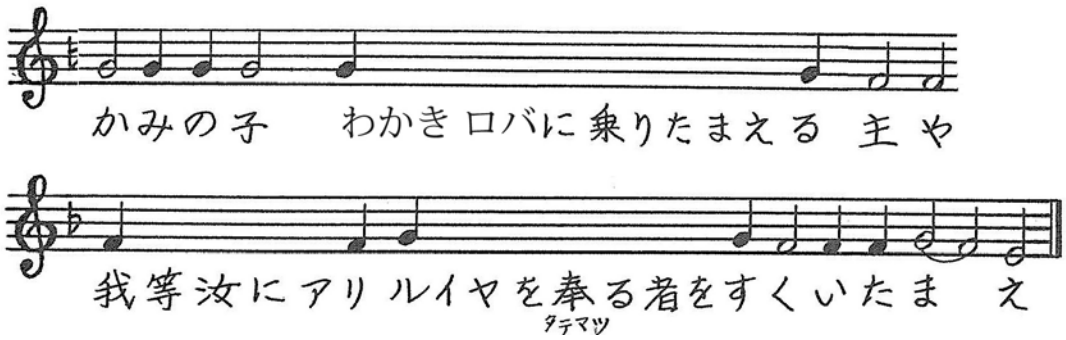
輔祭　神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑(たす)け救い憐み護れよ、

輔祭　至聖至潔(しせいしけつ)にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰･生神女･永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等 己(おのれ) の身及び互に各の身を以て、ならび に悉(ことごと)くの我等の生命(いのち)を以て、ハリストス神に委託せん、　**（詠）　主爾に**

輔祭　主イイスス ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈祷によりて、我等を憐れみ給え。　**（詠）アミン**

第２アンティフォン　115 聖詠

誦経（附唱）若きロバに乗り給いし神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。



誦経（第1句）我信ず、故に言へり、我はなはだ傷めり。

♪　神の子、若きロバに乗り給いし･･･（同上繰り返す）

誦経（第2句）我 何を以て／主の我に施しし悉くの恩に報いん。

♪　神の子、若きロバに乗り給いし･･･

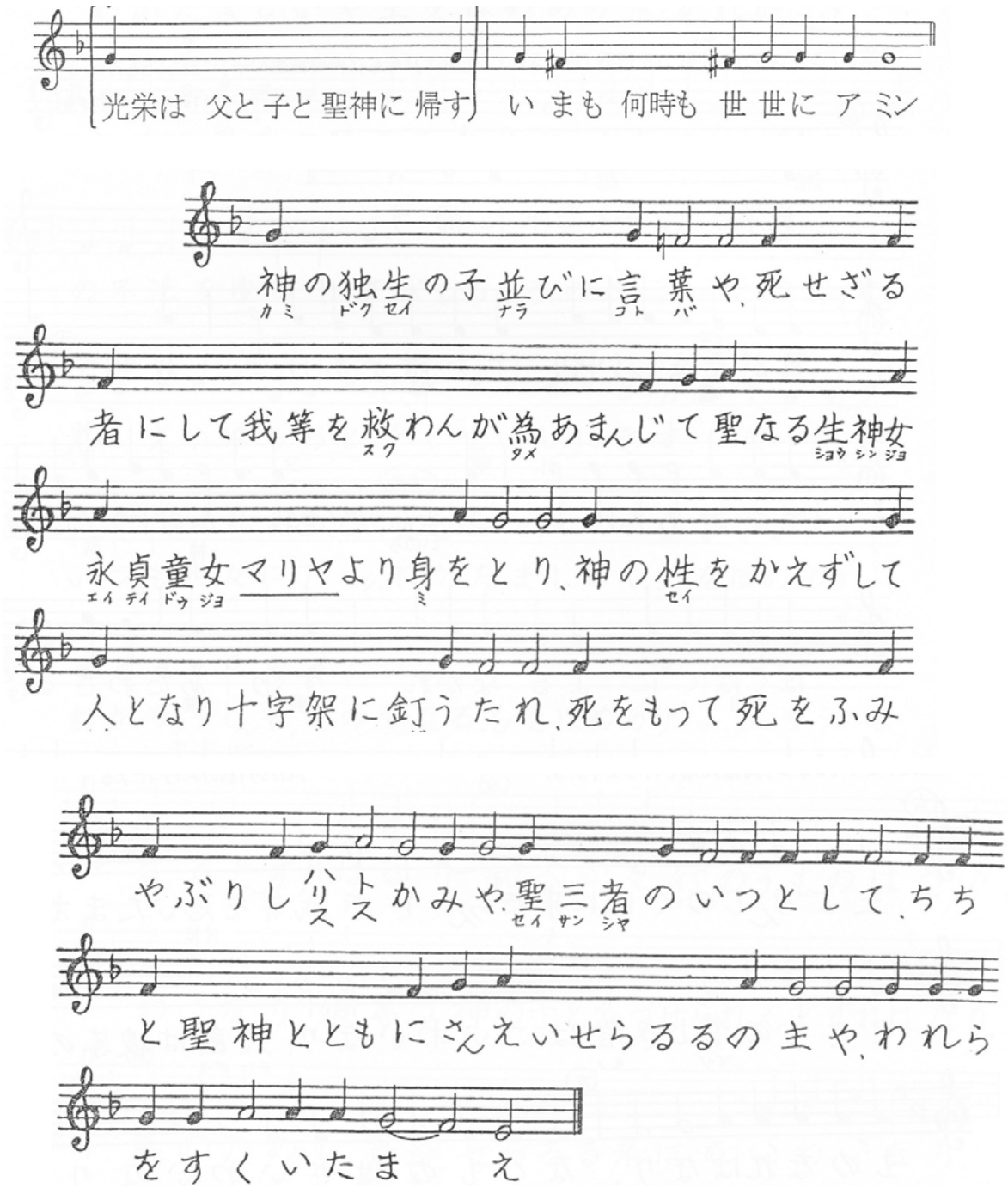
誦経（第3句）我 救いの爵（しゃく）を受けて、主の名をよばん。

♪　神の子、若きロバに乗り給いし･･･

誦経（第4句）我が誓いを主に、その衆民（しゅうみん）の前に償（つぐの）わん。

♪　神の子、若きロバに乗り給いし･･･

（続けて）



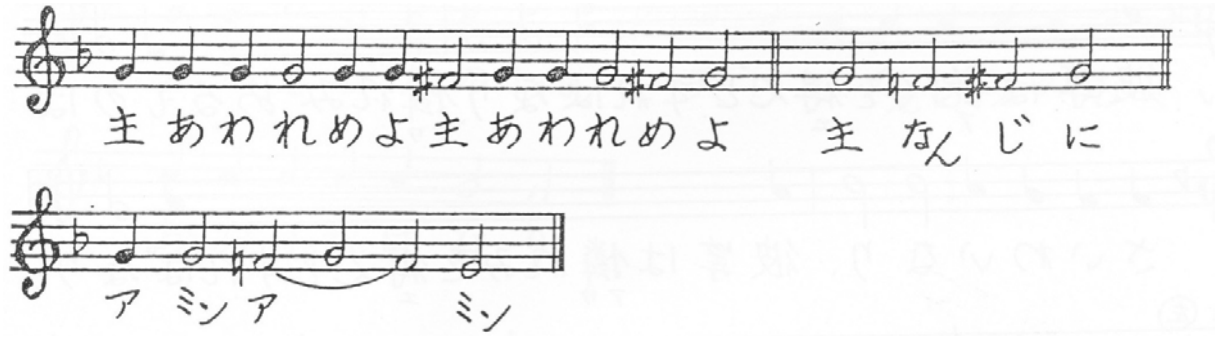
【小連祷】

輔祭　我等またまた安和にして主に祷(いの)らん、　**(詠)主憐めよ**

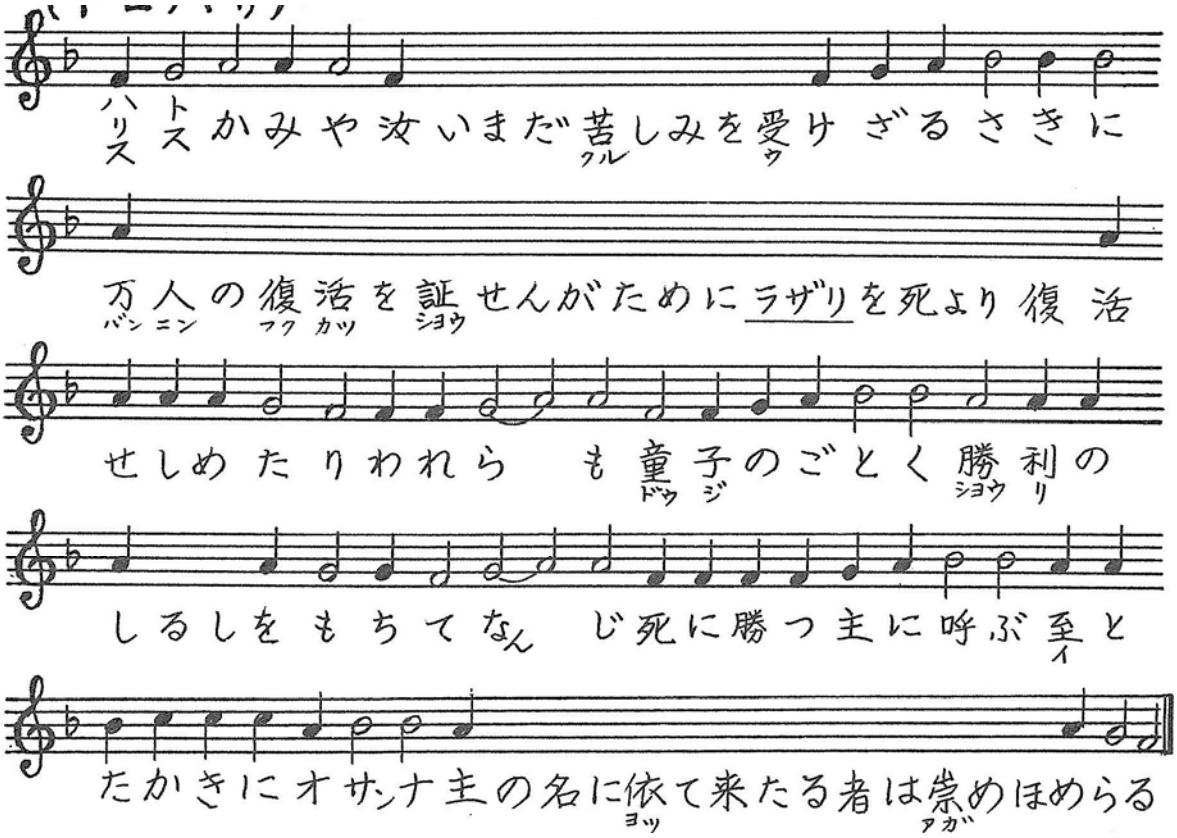
輔祭　神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑(たす)け救い憐み護れよ、

輔祭　至聖至潔(しせいしけつ)にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己(おのれ)の身及び互に各の身を以て、ならび に悉(ことごと)くの我等の生命(いのち)を以て、ハリストス神に委託せん、　**(詠)　主爾に**

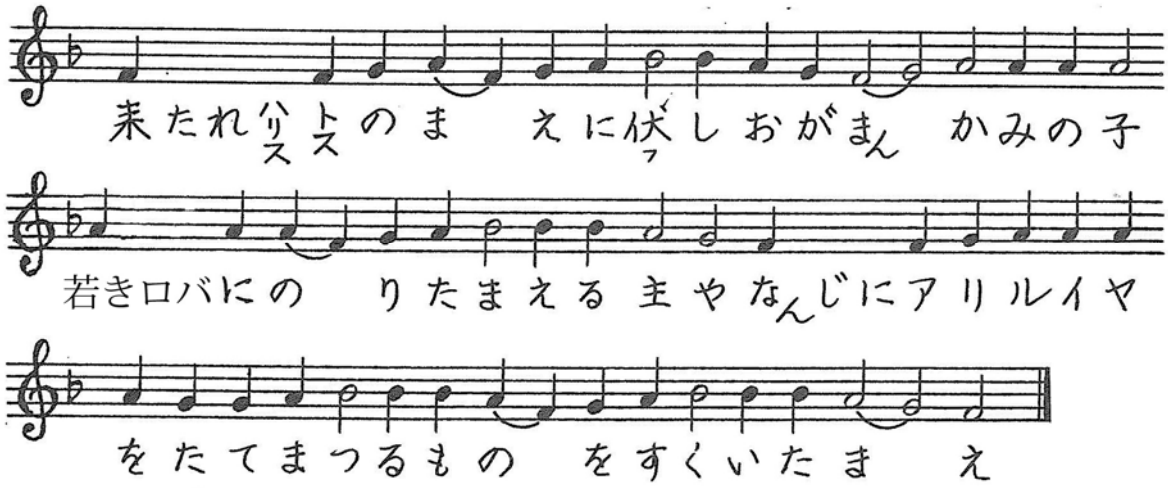
輔祭　主イイスス ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈祷によりて、我等を憐れみ給え。　(詠) アミン



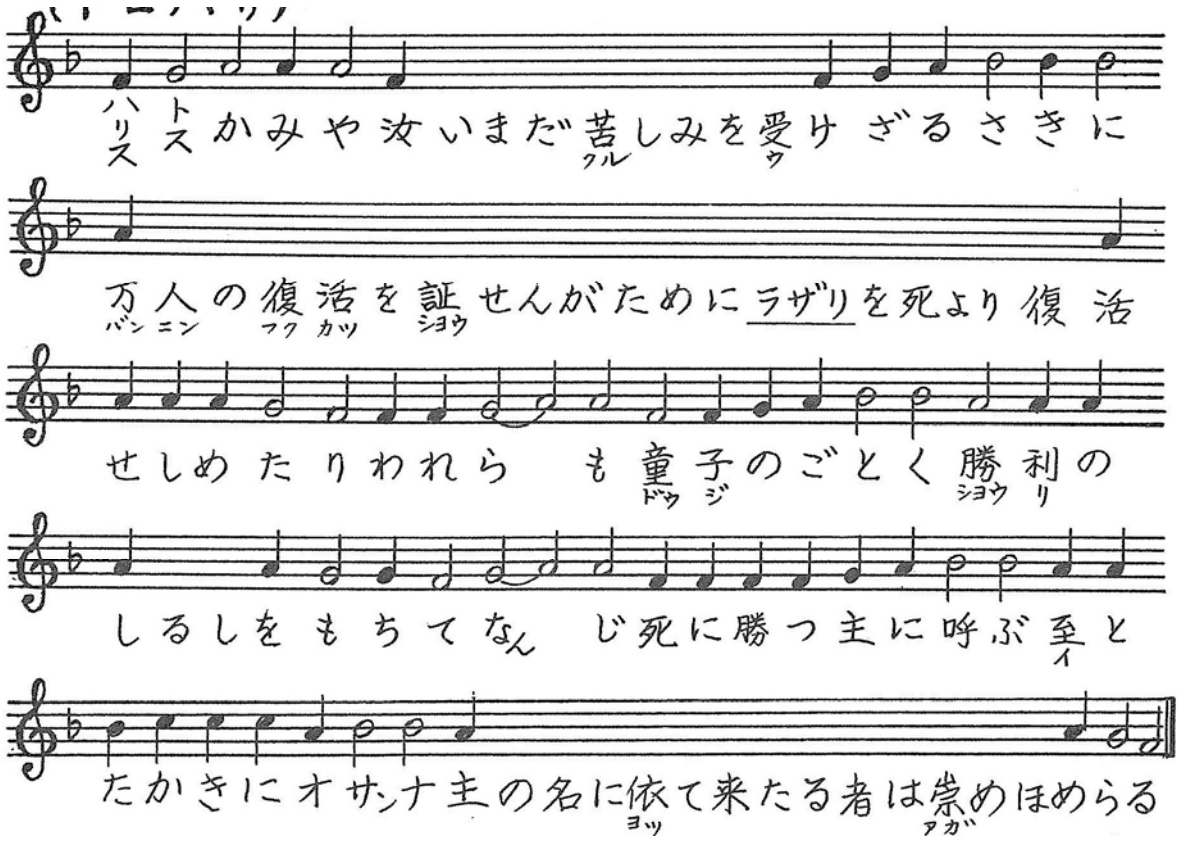
【第3アンティフォン】



輔祭　叡智　謹みて立て

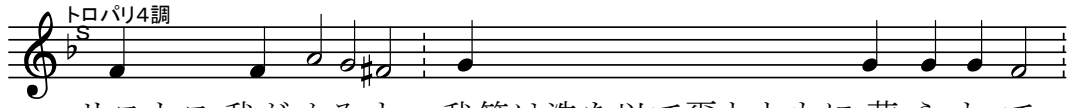


トロパリ１

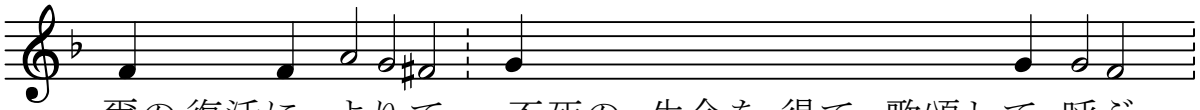


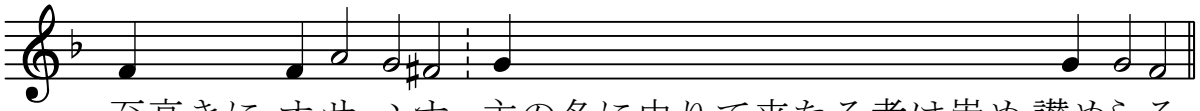
♪光栄は父と子と聖神に帰す

トロパリ２



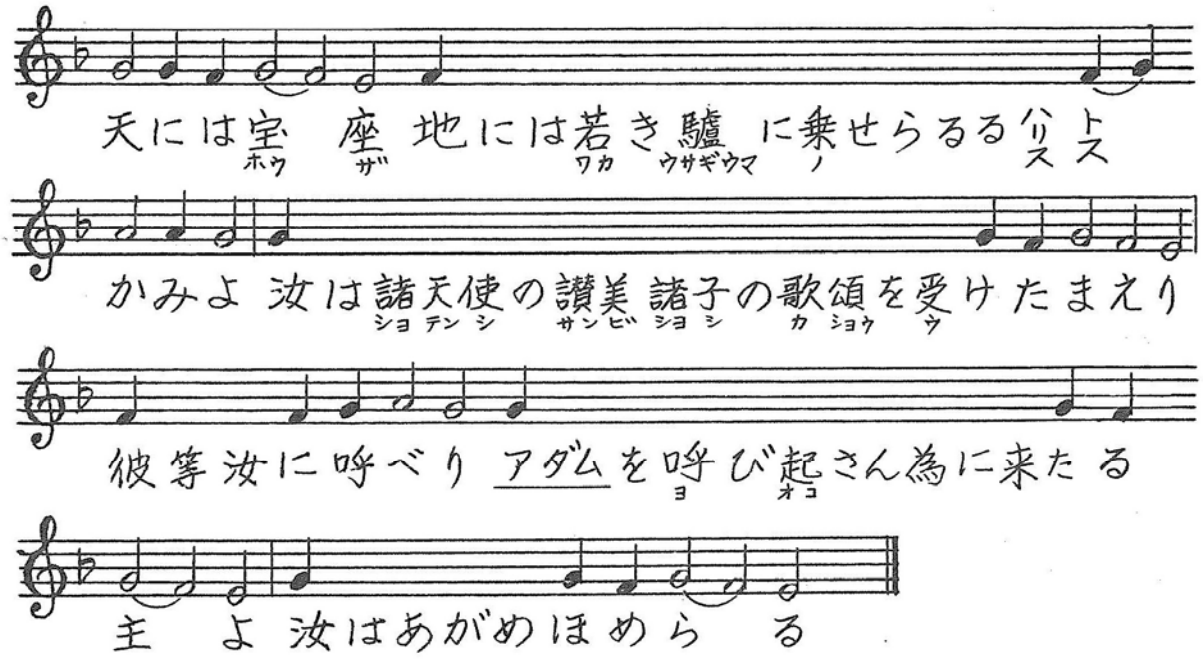
ハリストス我がかみよ　我等は洗を以て爾とともに葬られて



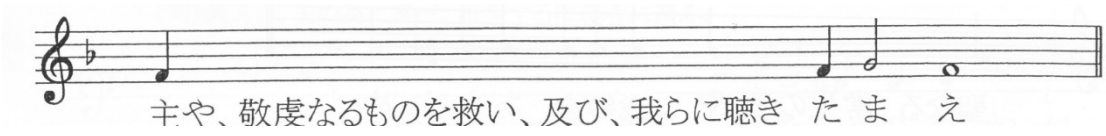


♪今も何時も世々にアミン

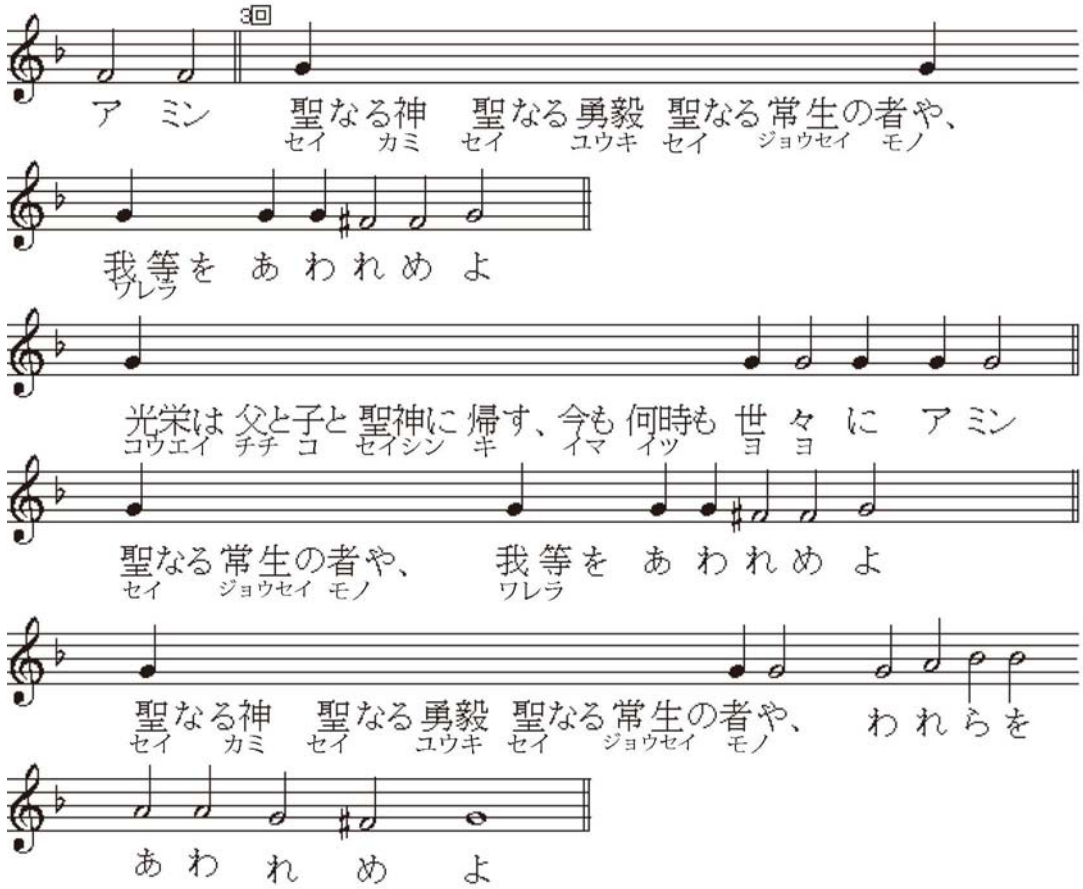
コンダク



輔祭　主や、敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給え



【聖なる神】



ポロキメン、第四調、

輔祭　叡智

誦経　ポロキメン

主の名によりて来たる者は崇め讃めらる、主は神なり、我等を照せり。

誦経　（句）主を讃栄せよ、蓋(けだし)彼は仁慈(じんじ)にして、その憐みは世世にあればなり。

♪　（繰り返す）

誦経　主の名によりて来たる者は崇め讃めらる、

♪　主は神なり、我等を照らせり

【使徒経】

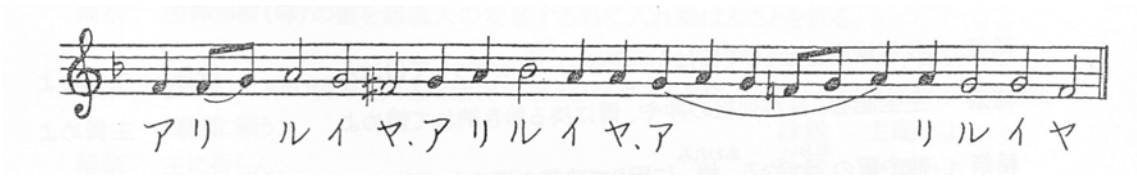
輔祭　叡智、聖使徒パウエルがフィリピ人に達する書の読み

輔祭　謹みて聴くべし

（フィリッピ4:4-19）

兄弟よ、爾等、恒に主に在りて喜べ。又、言ふ、喜べ。爾等の温柔は、衆人に知らるべし。主は近し。何事をも慮る勿れ。乃、凡の事に於て、祈祷、祈願、且、感謝を以て、爾等の求むる所を神に告げよ。然らば、神の平安、凡の知識に超ゆる者は、ハリストス・イイススに於て、爾等の心と、爾等の念とを守らん。之を究むるに、我が兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊きこと、凡そ義なること、凡そ潔きこと、凡そ愛すべきこと、凡そ稱すべきこと、如何なる徳、如何なる誉も、爾等、之を念へ。爾等が我に学びし所、受けし所、聞きし所、見し所は、之を行へ。然らば、平安の神は、爾等と偕に居らん。

誦経　アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ



誦経　（句）　新なる歌を主に歌へ、蓋彼は奇跡を行へり。

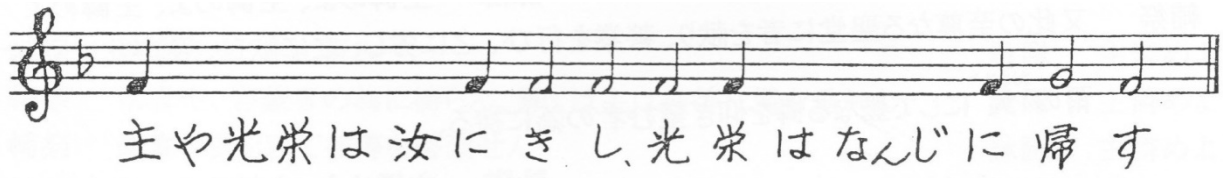
♪　**アリルイヤ**（同上繰り返す）

誦経　（句）凡そ地の極は我が神の救を見たり。

♪　**アリルイヤ**（同上繰り返す）

輔祭　叡智、謹みて立て、聖福音経を聴くべし

輔祭　**イオアン伝による聖福音経の読み**



逾越節の前、六日、イイスス、ワィファニヤに來れり。即、ラザリ、曾て、死して、彼が死より復活せしめし者の居る所なり。彼處に於て、彼の爲に、晩餐を設けたり。 マルファ、供事し、ラザリは、彼と偕に席坐せし者の一たり。マリヤは、純良なる「ナルド」の価貴き香膏一斤を執りて、イイススの足に膏り、己の髪を以て、其足を拭へり。家は、香膏の香気に満たされたり。其門徒の一、シモンの子、イウダ『イスカリオト』、即、彼を賣らんとする者、曰く、

『何ぞ、此の香膏を銀三百に售りて、貧しき者に施さざりし』。

彼の、之を言ひしは、貧しき者を慮る爲に非ず、即、竊者たるに因りてなり。彼は、金匣を持ち、其内に蔵めたる者を攜へたり。

イイスス曰へり、

「彼を舍け。彼は、我が葬の日の爲に、此を貯へたり。蓋、貧しき者は、常に爾等と偕にす。我は、常に爾等と偕にするにあらず」。

イウデヤの衆くの民は、彼の彼處に在るを知りて、獨イイススの爲のみならず、乃、其死より復活せしめしラザリをも見ん爲に來れり。司祭諸長は、ラザリをも殺さんことを謀りたり。蓋、彼の故に因りて、多くのイウデヤ人、往きて、イイススを信

ぜり。

明日、節筵の爲に來りし衆くの民は、イイススのイエルサリムに來るを聞きて、

稷櫚の枝を取り、出でゝ、彼を迎へ、呼びて曰へり、

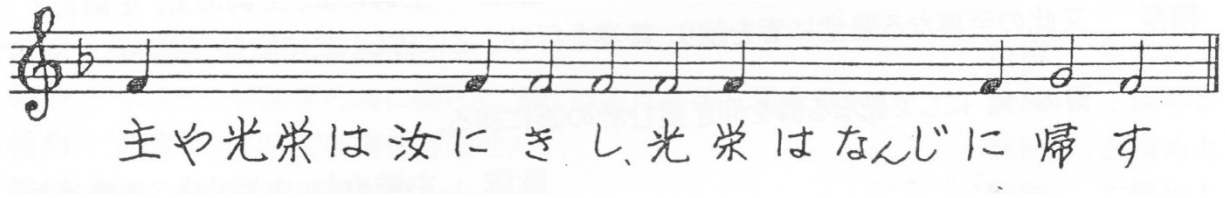
『『オサンナ』、主の名に因りて來るイズライリの王は、祝福せらる』。

イイスス、小驢を獲て、之に乗れり。録されしが如し、云く、

『シオンの女よ、懼るゝ勿れ。視よ、爾の王は、小驢に乗りて臨む』と。

彼の門徒は、初、此を暁らざりき、然れども、イイススの榮せられし後、此の事の、彼を指して録され、且、此を彼に行ひしを憶ひ起せり。

先に、イイススと偕に在りし民は、彼がラザリを墓より呼び出して、之を、死より復活せしめし事を証せり。此に縁りて、民は彼を迎へたり。蓋、彼が、此の奇蹟を行ひしを聞けり。



以下『代式祈祷』P18 以下と同じ